

第16回 ちゅうでん教育振興助成（平成28年度）

報告書資料 支援-25

学校名・団体名	郡山市立日和田中学校
HPアドレス	http://www2.schoolweb.ne.jp/swas/index.php?id=0720002
コース	学校支援
活動・研究 テーマ	キャリア教育とA・Lによる たくましく生きる生徒の育成
<p>〈活動・研究の意義、目的〉</p> <p>基本構想 全教育活動を通して、生徒一人一人に「今、なぜ学ぶのか」という問いに真摯に向き合わせるとともに、社会的存在の人間としてのあり方・生き方について考えさせるキャリア教育の機能を生かしながら、「自立して自分らしく生きるための軸（価値観や方向感覚、自己を良き方向へコントロールする力）＝「羅針盤」を醸成する</p> <p>研究仮説 学校教育活動の様々な場面で、キャリア教育の機能を生かした実践指導を展開すれば、内なる羅針盤を持ち、自主自立と自分らしい生き方を追求する生徒を育成することができるであろう。</p> <p>目指す生徒像 今を大切にしながら、自己の生き方を求め、人と関わり、自分の役割を果たすことができる生徒</p>	

<活動・研究報告>

1 主題設定の理由

本校の掲げる教育目標は「優しく～ 思いやりのある人」「賢く～ すすんで学習する人」「逞しく～ 心身ともに健康な人」である。この3つの教育目標の具現化を目指すために、キャリア教育の機能に注目した。刻一刻と変化する激動する社会の中で長い人生を歩む生徒たちにとって、今身につけるべき力とは、自立して自分らしく生きるための能力である。キャリア教育は、一人一人のキャリアの発達や個人としての自立を促す視点から、学校教育を構成していくための理念と方向性を示すものである。各学校が、この視点に立って教育の在り方を幅広く見直すことにより、教職員に教育の理念と進むべき方向が共有されると共に、教育課程の改善が促進される。キャリア教育の在り方を研究することによって、学校教育現場が抱える今日的な教育課題の解決に迫ることができると考え本主題を設定した。

2 研究内容・方法

(1) 本研究で育てたい力

- 自ら考え、自ら判断し、自ら行動できる力 [自己理解・自己管理能力]
- 自らの心を耕し、生徒相互が認め合い・支え合い・高め合う力 [人間関係形成・社会形成能力]
- 柔軟に変化に対応する力や失敗や困難な状況からリカバリーできる力 [課題対応能力]
- 学ぶこと・働くことの意義や役割の理解し、将来の自己像を設計できる力 [キャリアプランニング能力]

(2) 研究内容

- 共同研究・・・「社会的・職業的自立に向けて必要な能力を育てる総合学習」
- 個人研究・・・「「アクティブラーニングの手法」を意識した教科学習」

3 研究・実践経過

4/28 第1回現職教育全体会

- ・今年度の研究計画について現職教育主任から全職員に説明・提案があり、今年度の研究の進め方を確認した。

5/20 第2回現職教育全体会

- ・各学年の総合学習の計画、キャリア教育研修会の実施、キャリア教育に関する生徒意識調査について協議した。

5/27 福島大学富永研究室訪問

- ・研究主任が福島大学富永研究室を訪問し、キャリア教育に関する生徒意識調査の調査項目尺度の検討を行った。

6/8 第1回キャリア教育に関する「学校生活と進路の学習アンケート」実施

6/10 日和田地区小中連携協議会・授業研究会

- ・提供授業 1年1組 学活 「夢を持つ意義」 宮本生久男教諭
1年3組 道徳 「よりよい生き方を求めて」 小林智子・高野康男教諭
3年3組 国語 「3 ことばを見つめる」 菅野江美教諭
- ・分科会 三校の校長先生を指導助言者に迎え、授業研究を行った。
- ・全体会 講演「キャリア教育の「物語（ストーリー）」をつくるために」講師 福島大学准教授 富永美佐子先生

6/24 第3回現職教育全体会→キャリア教育に関する生徒意識調査を各学年ごとに考察並びに実態の把握を行った。

6/30 総合学習体験学習の日

- ・1学年＝「いわき方面体験学習」
→「アクアマリンふくしま」「いわきららミュウ」での震災体験談、「豊間薄磯地区」の見学
- ・2学年＝「仙台・松島方面体験学習」→職場訪問学習を中心とした体験学習を行った。
- ・3学年＝テーマ別グループ学習
○環境班＝市政きらめき出前講座受講 ○福祉班＝手話教室、高齢者・障害者模擬体験学習
○国際理解班＝JICA二本松訪問学習 ○復興＝富岡語り部の会、福大未来支援センター天野先生の講話

7/5 福島大学富永研究室訪問→第1回生徒意識調査の分析及び考察について意見交換を行った。

7/29 第4回現職教育全体会（キャリアカウンセリング研修会）

- ・福島大学准教授を講師に招き、キャリアカウンセリング・ロールプレイ・アサーショントレーニングの研修を行った。

9/9 総合学習体験学習の日

- ・1学年＝郷土を学ぶ体験学習 →「大安場古墳公園」「市立美術館」「市立歴史資料館」の見学体験学習
- ・2学年＝職業体験学習 →日和田町内各店舗事業所などで終日職業体験学習を行った。
- ・3学年＝テーマ別グループ学習
○環境班＝福島県環境創造センター訪問学習 ○福祉班＝南東北総合福祉センター訪問学習
○国際理解班＝市政きらめき出前講座受講 ○復興＝福島大学未来支援センター訪問学習

9/14 福島大学集中講義（教育相談心理学）受講

- ・研修主任が福島大学に出向き、富永美佐子准教授 の講義受講
キャリア形成とカウンセリング、アサーショントレーニングの手法などについての講義を聴講した。

9/23 アサーショントレーニング事前打ち合わせ

- ・福島大学准教授富永美佐子先生が来校し、1学年教師とアサーショントレーニングとの事前打ち合わせを行った。

9/30 「アサーショントレーニング教室（1学年）」

- ・福島大学准教授富永美佐子先生及び富永研究室の学生さん方が来校し、1学年生徒を対象に「アサーショントレーニング教室」を行った。

「全校キャリア教室」

- ・演題「自分のキャリアをどのように形作っていけばよいかー偶然をチャンスに変える積極的な生き方とはー」
講師 福島大学COC+推進室 地域コーディネーター 今泉 理絵先生

10/14 文化祭・総合学習発表会

- ・各学年ごとに半年間にわたる総合学習の足跡を発表した。

→1 学年＝郷土と共に生きる～未来への挑戦～

→2 学年＝職業体験の発表

→3 学年＝生きる

10/28 研究視察（お茶の水大学附属中学校）→三輪司・田中美保教諭が参加し、研修を行った。

11/11 研究視察（秋田県大仙市立大曲中学校）→菅野江美教諭が参加し、研修を行った。

11/18 研究視察（東京学芸大学附属小金井中学校）→三浦知美・小林智子教諭が参加し、研修を行った。

11/23 研究視察（茨城県大洗町立大洗南中学校）→倉島豊・村上剛教諭及び佐々木優真講師が参加し、研修を行った。

11/29 授業研究会（一般公開）

- ・半年間の研究の歩みを授業研究会を通して一般公開した。

→公開授業Ⅰ 3 学年全組 総合学習 「生きる」総合学習を振り返って 授業者 校長 熊坂 洋 3 学年担当教師

→公開授業Ⅱ 1 年2 組 国語 「少年の日の思い出」 授業者 三浦 知美 教諭

2 年3 組 社会 「日本の諸地域-中部地方-」 授業者 矢吹 真 教諭

3 年女子 保健 「性感染症とその予防」 授業者 中澤 幸子 教諭 伊藤 郵子養護教諭

→講演会 演題「演題「キャリア教育の「物語」を創るために（3）」

～キャリア教育を通して、児童生徒にどのような変化が見られるのか～

講師 福島大学 准教授 富永美佐子 先生

12/20 第2 回キャリア教育に関する「学校生活と進路の学習アンケート」実施

12/28 福島大学富永研究室訪問→第2 回生徒意識調査の分析及び考察について意見交換を行った。

12/28 福島大学富永研究室訪問→第2 回生徒意識調査の分析及び考察及び今後の研究の進め方について協議した。

2/27, 28 「自己効力感を高めるトレーニング教室（1 学年）」

- ・福島大学准教授富永美佐子先生及び富永研究室の学生さん方が来校し、学年教師とともに実施した。

4 考察

第1 回と第2 回の生徒意識調査の結果や体験学習後の生徒の感想等をもとにして、今までの取り組みを振り返ってみた。

(1) 本研究で育成しようとした4 つの基礎的・汎用的能力の中で「キャリアプランニング能力」は学年が上がるに従って、同じ学年の中では学年はじめよりは学年終わりの方で上昇傾向が見られ、現在本校で行っている進路学習、特に中学校卒業後の進路を選択していくことを中心とした学習の効果が表れていると思われる。

(2) 4 つの基礎的・汎用的能力の中で、自己理解・自己管理能力はどの学年も最も低く、「指示されたことはやれるが、自分で考えて指示されたこと以上の部分までやる意識が低い」「自分の目指す目標を、自分の手が届く範囲の中で設定してしまい、自己の能力の限界を引き上げる意欲に乏しい」などの本校生徒が抱える課題が依然として残されていることがわかる。この原因は、現在の進路学習が中学校卒業後の進路選択の領域に特化しているためと思われる。自己の個性や適性を知るための学習や進路に関する不安や悩みの解消方法などの学習を位置づける必要がある。本研究の中で行った全校生徒対象のキャリア教室や1 学年対象のアサーショントレーニング教室を実施した後の生徒の肯定的、共感的な感想等からも、この領域の学習が不可欠であることがわかる。

(3) 4 つの基礎的・汎用的能力や自己効力の高低群による進路学習の習熟度に大きな差が見受けられる。進路学習においても教科学習の場合と同じように、個に応じた指導援助が必要になっていることは明らかである。

(4) 生徒の意識調査の結果から、4 つの基礎的・汎用的能力の中で課題対応能力が高い結果が出ている。しかし、教師の日常の観察から受ける印象は必ずしも高くはない。

課題対応能力の高低群における進路学習の習熟度や自己効力の差が大きくなっており、特に低群に属する生徒の「理想的な自分を思い浮かべることができるが、実行が伴わない生徒」が多いことは「課題対応能力の高低群における勉強や健康について」の調査結果からも明らかである。この点についても留意して今後の指導に取り組みなくてはならない。

(5) 3 学年において4 つの基礎的・汎用的能力や自己効力の上昇が意識調査から明らかになった。これは中学校3 年間の進路指導を中心とした取り組みの成果ではあるが、1 1 月末に実施した総合学習のまとめの授業の存在が大きいと思われる。

自分たちが学習した成果の意味づけを行ったこと、つまり3 学年の総合学習のテーマである「生きる」に「意味」を持たせたことが大きなウエイトを占めていると思われる。このことは、先行研究における「職業体験学習の事前事後の指導の充実が重要である」という結果とも一致する。

5 成果と課題

(1) 本校では従来より総合学習の本来の目標を達成すべく、毎年各学年ごとに多様な体験学習を計画し、秋の文化祭で地域や保護者へ向け学習の成果を発信してきた。本研究の柱の一つである総合学習にキャリア教育の視点や機能を組み込むことで、総合学習の目標がより確実に達成されるようになった。

(2) 総合学習に限らず、教育活動のすべての領域でキャリア教育の視点や機能を意識し指導援助に当たること、本校生徒の新たなよさや可能性を目の当たりにすることができた。本校が抱える教育課題の解決に取り組んでいくとき、キャリア教育の視点は我々教職員自身の進むべき方向性を示す「羅針盤」となることは確かである。このことに、指導援助者である我々教職員が気づくことができたことは大きな成果といえよう。

(3) 「アクティブラーニングの手法」を用いた授業づくりについてはまだまだ稚拙な域をでない。文献研究もさることながら、まずはお互いの授業をもとにして議論し、切磋琢磨し合う教職員集団の形成が当面の目標である。「授業で勝負できる教師」を目指したい。

(4) 先行研究によれば、「キャリア教育の充実が学力の向上に寄与する」という報告がある。今回の研究では、4 つの基礎的・汎用的能力や自己効力と学力の関連については、客観的なデータを基にした検証はできなかった。キャリア教育の充実が学力の向上につながるとするならば、学校現場においてキャリア教育に対する理解が得られ、より充実した実践が期待されよう。キャリア教育と学力の関連について明らかにしていくことが今後の課題の1 つである。